

再始動した「サンクスナース」プロジェクトの活動

3つの活動の柱で看護職をサポート



「サンクスナース」プロジェクト 共同代表
NPO 法人キャンサーリボンズ 副理事長

岡山慶子

サンクスナース活動の再始動と 「看護師さんへの 感謝のメッセージ企画」

1993年、故・日野原重明先生をはじめとする数名の委員とともに「サンクスナース」プロジェクトを立ち上げました。当時は1990年の「看護の日」制定など、医療における看護の重要性が改めて認識され始めた頃です。そのような背景の中で、また医療者個人への直接のお礼を控える文化が出始めたこともあり、患者・家族の方々からの「何とかお礼の言葉を伝えたい、看護師さんの役に立つことで、恩返しをしたい」との声に押されて、「サンクスナース」プロジェクトの活動が始まりました。これは個人の思いを1つに集めることによって社会化する、新しい試みでもありました。

その後、活動休止を経て2018年にNPO法人キャンサーリボンズ（理事長：中村清吾＝昭和大学乳腺外科教授）が「サンクスナース」プロジェクトの活動を引き継ぎ、再始動したところ、コロナ禍となりました。未知のウイルスとの闘いの中で日夜、私たち市民の命を支える多くの看護師さんの姿を目の当たりにし、あらためて、昔も今も変わることのない「目の前の患者さんへの思い」と「科学的思考」を両輪とする看護の力を感じ、再び、感謝を伝えたいと考え、「看護師さんへの感謝のメッセージ企画」を展開しました。

ウェブサイトやメディアを通じた「看護師さんへの言葉を寄せてほしい」という私たちの呼びかけに、文化人や、全国の小学生から80代の方まで多くの皆さまが応えてくれました。これらを「メッセージ集」（図1）としてまとめ、各都道府県の看護協会や病院にお届けしています。また、軽井沢朗読館館長である青木裕子さんが23編のメッセージを朗読した動画を、YouTubeで公開しています。

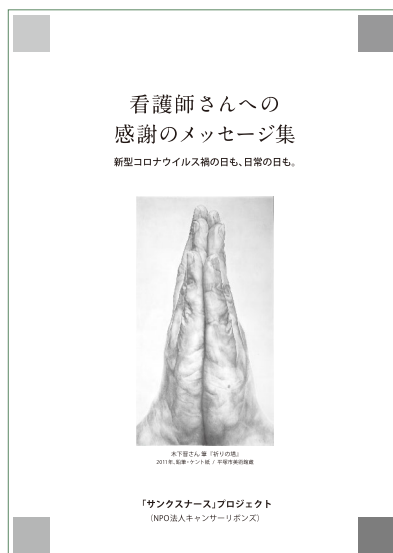


図1 メッセージ集の表紙

「新型コロナウイルス禍の日も、日常の日も」というタイトルを付け、看護師さんにこれからも感謝を伝え続けたいという気持ちを込めました。

今後の活動予定

「サンクスナース」プロジェクトの再始動に当たり、看護師さんの①志の実現のサポート、②心身の健康のサポート、③感性を磨くことのサポート、という3つの柱を立てました。

①では、2020年10月にがん臨床に携わる看護師による課題発見のためのグループワークを実施しました。そこで看護師間のピアサポートや院内にとどまらないバックアップ体制などの「新しい仕組み」の必要性が示唆されたことを受け、実現に向けて企画中です。②は、食回りの支援やリモート・ヨガ講座を継続計画しています。③は「アートを通じてケアを捉え直す」試みです。病院スタッフに向けた、アートを使ったグループワークによるケアの質向上に取り組みます。



図2 シンボルマークのコンセプトは、「ありがとうで咲かす笑顔」。看護師さんに笑顔を届けたいという思いを込め、「花束を受け取った笑顔」をモチーフにした。

今回、賛同パートナーである東京工科大学（医療保健学部とデザイン学部を併設）の協力で、学生から寄せられた38のデザイン案からシンボルマークを作りました（図2）。将来、医療職として、あるいはデザインを通してケアに貢献したいと考える彼らにとっても、看護について学び、考えた今回の経験が財産となることを願っています。そして、このシンボルマークが人と人をつなぎ、「サンクスナース」プロジェクトをより社会化する力となってくれることを期待しています。

今後の活動は「サンクスナース」プロジェクト公式サイト（<https://www.thanksnurse.jp/>）を通じて発信していきます。寄せられたメッセージや動画も下記QRコードからご覧いただけます。



【参加者募集】リフレッシュのための「リモート・ヨガ講座」に参加しませんか。看護職を対象に5～7月の第3水曜日（5/19、6/16、7/21）の20時～20時40分にZoomによる講座を開催します。参加費は無料です。詳細とお申し込みは上記公式サイトをご参照ください。